

学園点描

クマの出没による被害が全国的に広がっています。クマと遭遇しないための策を考えるしか打つ手はありません

《H学園》

NO.14

R7. 10. 08

担当：校長

【H地区にお住まいの皆様へお願い】

地域でクマの出没が確認されていることを受け、本校では全校児童生徒に「クマ鈴」を渡しました。登下校の際に歩くたびに音が出て、多少耳ざわりに感じられることもあるかと思いますが、子どもたちの安全を守るための措置ですので、ご理解いただきますようお願いいたします。

また、やむを得ずクマとの遭遇を避ける必要が生じた場合には、近くのご家庭へ一時的に避難するように子どもたちに指導しております。その際にはご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。



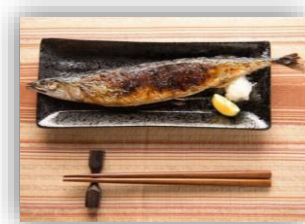
第58回「受信環境クリーン図案コンクール」で、8年生のS・Yさんの作品が『東北協議会入選』を、同じく8年生のS・YさんとT・Nさんの作品が『佳作』を受賞しました。T北の中でY県は7作品受賞のうち3作品がH学園の生徒でした。現在、テレビのスポットCMで流れているそうです。

頭を下げた父が与えたもの

「親が亡き後を思うとわが子が心配になります」

保護者との相談の中で、ときどき保護者の方から聞いてきた言葉です。親というのは、どうして、そんなに自分が亡くなった後のことまで心配するのでしょうか。きっと、親や保護者ほど、この世でわが子のことを心配してくれる人間は、いないと思うからなのでしょう。だからといって、親が死んだ後も十分な蓄えを残そうとするのは親としての本当の有り様ではないでしょう。

Aさんという保護者の方は「人に魚を与えると1日で食べてしまう。でも、人に釣り方を教えれば生涯食べていく事が出来る“という中国の格言がなるほどなあと思っています。せめて、子どもには”釣り方“を授けられたら私はきっと安心すると思います。」と語っていました。



今学期は積極的に学校の外に出て学習する教育活動を仕組んでいます。10月2日・3日は、7年生の職場体験学習です。お客様でなく、本当の意味で社会で働くには何が必要かを実感し、それを今後の学校生活の中で意識してほしいと思い実施しています。

職場体験をさせてもらった各事業所さんから感想をいただきました。「服装や身なりも適切で、忘れ物や不備等も特になく、時間を守って行動していました。」とお褒めもいただきましたが、「挨拶がなかなかできない」「返事の声が小さい」という、働く者としての心構えへの厳しいアドバイスもいただきます。

学校は成功の体験で満ちあふれています。社会に出て一番ぶつかるのは、失敗の体験と、そのときのリカバリーです。学校では教えることができないことが、社会の中の実体験の中にはたくさんあります。教科書にも書いていない大切なことが社会では必要となることを教えてもらえたことがありがたいのです。



中国の格言を教えてくれた保護者のAさん。父親であるAさんは大家族で、自分一人の収入で4人の子と祖父母を養っています。中学校は制服だから助かると言っていました。そのAさんの二男が修学旅行中に、同じ班の生徒とけんかして殴ってしまったのです。旅行後に、Aさんは二男とともに、殴った相手の生徒の家に行って、わが子の前で深々と頭を下げて謝罪しました。でもAさんは、けんかした話を聴いたときから、わが子を叱りませんでした。けんかのきっかけは、あるレストランに入っても何も頼まないAさんの二男に対し、リーダー格の男子生徒が「貧乏人！」と言った一言だったのです。家族みんなへのお土産を買った二男には、もうお小遣いは残っていませんでした。父親が頭を下げた後、家路につく途中で、二男は泣きながら父に頭を下げたそうです。

この話を聴いたとき、わたしは、Aさんがわが子に、この社会を生きていくための本物の“釣り方”を与えたかったのだと思いました。

きりとり

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp